

大事協だより

大島地区公立小・中学校
事務職員協会 研修部
第 40 号
2013 年 3 月 8 日発行

<各地区からの便り>

今回の原稿は、①与論町②喜界町③徳之島町から頂きました。ありがとうございました。次号は、来年度 6 月発行予定です。

①与論町事務支援室 吉村 勝伸

こんにちは、こちら与論町事務支援室です。

与論島は、県最南端かつ最西端に位置し、エメラルドグリーンの海に囲まれた全島珊瑚礁からなる島で、その自然の美しさから「東洋の海に輝く一個の真珠」と呼ばれています。自然に癒されたい方は、ぜひ与論島観光にお越しください。

さて、本町は一昨年 7 月から共同実施を本格的にスタートし、原則週 1 回、火曜日（10：00～15：30、途中仲良く給食もいただきます）に執務室のある那間小学校で支援室定例会を開催しています。室員は 4 名の少人数のため、一人ひとりに掛かる負担は大きくなりますが、各々が分担された係の業務を責任を持って遂行しています。業務内容は、主に手当認定、旅費の相互点検及び若年経験者支援を行っていますが、年間の研究テーマとして位置づけている「文書管理の電子化～町のシステム移行を踏まえて～」の研究も合わせて進めています。

また、支援室便り「うちじゃしより」を月 1 回を目処に発行し、町内教職員の情報の共有化・標準化を目指しているところです。その他、毎年夏季休業中には全校の施設の安全点検を実施し、その危険箇所をまとめたレポートを基に、各校早急な修繕ができるよう支援しています。

最後に、まだ共同実施が始まったばかりで、今のところ事務支援が中心になっていますが、今後は教育支援にも力を注いでいけたらと思います。

今後ともよろしくお願いします。

②喜界町事務職員会

こんにちは。喜界町事務職員会です。

喜界町は今年度、大規模な学校再編により、喜界小学校、早町小学校、喜界中学校としてそれぞれ新たなスタートをきりました。それに伴い、昨年度まで 10 名いた事務職員が、今年度は加配を含む 4 名となり、非常に寂しくなりましたが、少数ながらもにぎやかに、和気あいあいと活動しています。

事務職員部会でも学校再編に向けて取り組んできましたが、いざスタートしてみると、予期せぬ問題が起こることも多々あり・・・振り回されながらも何とか今日までやってこられたのは、何でも相談にのってく

れる事務職員の皆さんのおかげです。月 1 回の研修会で顔を合わせるのがどんなに楽しみだったか・・・。

再編後の処理がまだまだあり、苦勞をしている私たちですが、平成 25 年度から始まる共同実施の導入に向けて、後ればせながら取り組んでいるところです。10 月には研修視察を行い、貴重なお話を伺うことができました。お世話になった皆さま、本当にありがとうございました。現在は、諸手当認定や旅費関係の様式の統一、財務会計システムのマニュアル作成、ファイリング等について少しずつ進めています。

今後も課題はありますが、3 校で連携して、前向きに取り組んでいきたいと思えます。



③徳之島町事務職員会

徳之島町立尾母小中学校 富山 剛士

こんにちは、徳之島町事務職員会です。平成 24 年度は昨年度に引き続き新規採用者が 1 名加わり、「学校事務の効率化・標準化」を研修テーマに、10 名でのスタートとなりました。徳之島町は小学校が 8 校、中学校が 6 校あります。経験の浅い事務職員が多いですが、優しい先輩方のアドバイスをいただきながら、日々成長していけるよう頑張っています。

徳之島町では 11 月末に管外研修視察を実施し、宮之城文化センターでさつま町小中学校事務職員部会による徳之島町・南大隅町・錦江町の三町で合同研修会を、阿久根市立三笠中学校では、阿久根市小中学校事務職員部会の先生方と共同実施についての研修会を行いました。共同実施に向けた経過事項、業務内容等これから共同実施を進めていくなかで参考となる貴重なお話を聞くことができ、とても充実した管外研修になりました。

そして徳之島町も来年度から本格導入される共同実施に向け、1 月から 2 回、ブロック別（北・南）に分かれ、南は亀津中学校、北は当面の間、花徳小学校を支援室拠点校とし、共同実施の試行期間とし

て支援室（準備室）業務に取り組んでいます。主に、諸手当認定事務審査，給与・旅費事務審査，広報誌の作成，教育支援のための共同研究，町費マニュアルの作成等行っていく予定です。

年末には忘年会&バドミントン大会も行いました。その様子を一部紹介いたします。この写真から徳之島町の雰囲気のよさを感じ取っていただければと思います。これからもメンバー全員で協力して頑張りますので，どうぞよろしくをお願いします。



④奄美市住用ブロック

こんにちは，住用ブロック事務職員会です。

私たちの勤める住用町は，まだ記憶に新しい2010年の奄美豪雨災害に引き続き今年度も住用総合支所の庁舎が，浸水してしまいました。現在，住用公民館に仮移転し，度重なる災害を教訓に市民福祉課等の主要課を2階に移し，対応しています。高齢者も多く不便ではありますが，決して市民サービスの低下を招かないように奮闘中です。そして，少しでも早く安心して安全に使える新庁舎(2013年度末完成予定)の完成が待ち望まれています。このように住用町は，更なる発展を遂げようとしています。そんな住用町の一助になればと，私たち事務職員会も微力ながら頑張っているところです。

奄美市では，平成24年度から「学校事務の共同実施」が導入されました。住用ブロックでは，学校事務支援準備室として住用中(拠点校)，住用小(執務室設置校)，東城中，市小中の4名で活動しています。支援準備室の状況ですが，月に2回水曜日の午後に共同業務を行っています。諸手当の認定審査，給与関係簿の相互点検，支援準備室便り「マングローブ」の発行，市費や県費事例等の研修・情報交換が中心です。導入が急に決まり，否応なしに始まった感じも強い共同実施ですが，苦にならないように全員が早目に集まり，コーヒーを飲みながら時間一杯業務に励んでいます。現在の取り組みとしては，年度初めに住用地区全転入職員の状況を支援準備室職員全員で把握し，手当認定

事務や赴任旅費，福利関係等事務全般について，どんな手続きが必要か全員で考え助け合える対策を検討しています。そして，忙しい4月の業務を全員で協力し，正確に処理できればと思っています。兼務辞令が出ていないため，業務内容に制限がありますが，事務の効率化を図りながら，教育支援へ繋げることを目的として日々努力しています。これからも住用ブロック事務職員会をよろしくお願ひします。



～新規採用者の声～

与論町立茶花小学校 江尻 雄輔

4月3日，飛行機は悪天候のため条件付き飛行での赴任，また空港での盛大な歓迎は大変良い思い出になっています。そんな赴任の日から半年以上経過した今，私も少しは成長できたのではと感じています。赴任時には，学校に勤務できる喜びよりも，学校で事務職員が一人しかいないことへの不安のほうが大きかったです。それらの不安を取り除くことができたのは，町内の先輩事務職員，職場の同僚，子ども達，そして地域の方々のおかげであったと思います。

先輩事務職員の方々には，些細な疑問にも丁寧な回答をいただきました。週1回の支援室を活用して仕事の方法，取り組み方，コツなどを学び，多くの面で支えられています。

校内業務でも，特に急ぎの提出書類作成時などの際は，同僚の先生方のフォローに大変助けられました。また，毎日校庭から聞こえてくる子ども達の元気な声を聞いて，日々気持ちよく仕事に臨んでいます。

そして，茶花小学校には多くの地域行事があり，行事を通じて顔を覚えていただきました。そのため，地域の方々から休みの日に声をかけていただくことも多くなり，与論での生活にもだいぶ慣れてきました。

まだまだ足りないことは多いですが，今後も周囲の人に対する感謝を忘れずに，自分の仕事にしっかりと取り組んでいきます。

徳之島町立亀徳小学校 川原 裕美子

昨年4月に事務職員として亀徳小学校に赴任してから，もうすぐ1年が経とうとしています。この1年を振り返ってみると，毎日がとても充実していて，あっという間に過ぎていったように思います。

赴任当初，何をしたいのか分からず，不安だらけだった私に，周りの先輩方が優しく丁寧に教えてくださったことを，今でも鮮明に覚えています。また，徳之島町の先生方は1人1人とても個性的で，面白い方ばかりです。こんなに良い雰囲気の中で勉強させていただいて，私は本当に恵まれているのだ

と思いましたが、そして、今こうして1年間を乗り切ることができたのも、先輩方の温かいご支援があったからこそだと強く感じています。

いつも本当にありがとうございます。

徳之島に来て、星がたくさん見えること、そしてなにより海が綺麗なことに感動しました。そんな豊かな自然環境の中で育った子どもたちはとても元気がよく、かわいくて仕方がありません。学校の先生方とは仕事内容こそ違いますが、同じ教職員として学校生活をはじめ、子どもたちとの関わり方や社会人としてのマナー等、たくさんのことを教えていただきました。

社会人としてや事務職員として、まだまだ未熟ではありますが、これからも周りの方々に対する感謝の気持ちを忘れず、笑顔をもっとに頑張っていきたいと思えます。どうぞよろしくお祈りします。



<執行部より>

平成25年2月22日(金)奄美自治会館2階にて、13時～執行部会、15時から理事会を行いました。開会に先立ちまして、2月12日に亡くなられました、西阿木名小中学校の阪口先生のご冥福をお祈りし、1分間の黙祷を捧げました。

協議事項については、大きな項目は次の通りです。詳細については、各理事の先生方へお尋ねください。

1. 活動経過報告

- ①予算の確認
- ②アンケートの確認

2. 県事協評議委員会報告

3. 今後の活動計画

- ①大事協だよりについて
- ②会計監査
- ③各市町村事務職員代表者・組織・研修調査表提出・4月下旬

4. 地区事務研における発表市町村について

いろんな意見があり、ドキドキしましたが、加川先生から提案された5つの地区を基本に、1地区3市町村ずつ、持ち時間10分から15分程度で、お願いできないかということになりました。

来年度は、喜界町・奄美市笠利町・龍郷町が、発表を行う事になります。

再度、来年度第1回理事会で確認したいと思います。

各市町村、なるべく負担のないように進めていけたらと思いますので、御協力、よろしくお祈りします。

☆余談ですが、今回の会場は、「奄美自治会館」でした。場所は、大島支庁の門の横です。私も、誰もいない「奄美会館」で、しばらく待っていました。いろんな「会館」があるんですね。

今年度、定年退職を迎えられるお二人の先生方から、メッセージを頂きました。



退職を迎えて

奄美市立小宿小学校 上田久夫

いよいよ退職の日を目前として 初任校の亀津中学校へ赴任してからいつの間にか36年がたったのだなーと何となく寂しさが募るこのごろです。

ふりかえると、大きな穴がいくつもほしくらい恥ずかしいこと（あまりに恥ずかしくて言えないことばかりですが・・・）を繰り返してきた36年間だったなーと赤面しますが・・・そこは置いておいて。

学校事務職員としての前半は部活動中心の生活でした。初任地の亀津中学校で女子バレー部の顧問をすることになり、以来20年、中学校の部活、小学校のスポーツ少年団、はてはママさんバレーにまで関わってきました。

最初はなんとか勝ちたいと勝負にこだわり、子どもたちに無理をさせていた練習でしたが、先輩の「バレー部は授業中に居眠りしているぞ」の一言から、将来ママさんバレーで楽しめる程度でいい〜ぐらいの気持ちで、勝ったり負けたりできる程度の楽しいバレーを目指すようになりました。

中体連の大会で事務職員が監督をできないことに憤慨し、同じ学校職員として教員との差別ではないか？と改善に努めたことも大きな思い出です。

後半は余暇を自分のためにつかうぞ！とひたすら趣味の世界に没頭しました。

魚釣りに始まり魚のレプリカ作り、オートバイでのツーリング、最近はレザークラフトと楽しんでます。

学校事務職員という職について 余暇を楽しめる時間を持ちやすいことに感謝して過ごした毎日です。

この36年間を学校事務職員として過ごしたあいだは「楽しい職場であるための一助になりたい」をモットーに過ごしてきました。

学校は家庭よりも長い時間を過ごす場所です。職員すべてが楽しく過ごせる場でなければ子どもたちも楽しく過ごせるはずはありません。もちろん立場の違いや主張の違いからの軋轢はありました。それはしょうがないことですが、後を引かないようなフォローもしてきたつもりです。

校務分掌の組織図のことではいぶ意見をかわしました。それは組織図において、かつては事務部と教務部が並列であったものを主任制度の発足と同時に事務部が下げられたものを、もとのように並列にしてほしいという意見です。

このことはなかなか校長の理解が得られませんでした。

学校の主役は子どもたちであり、そのために働く様々な職種に上下関係があれば目的を達することはできないでしょう。

この問題も13年前ぐらいでしょうか。県教育委員会から「組織図はその学校で実態に会うように変えるように」というような達しがあり、解決しましたが、みなさんの学校の校務分掌図はいかがでしょうか？

いよいよ共同実施も本格実施になってきます。「学校運営に参画する事務室」を実践するためにもまずは校務分掌組織図の見直しをしましょう。

学校事務職員は独人職種であり、初任者が言葉の意味もわからず途方に暮れるのは今も昔も変わらないことだと思います。わたしも先輩をはじめ、まわりの事務職員のおかげで曲がりなりにも定年退職まで職を全うできたと感謝しております。今後は、支援室もその一助を担うことになることなのでしょう。事務職員同士の横のつながりを大事にしてほしいと思います。

この36年の間に学校の雰囲気も変わり、私たちを取り巻く制度も、給与体系も変わってきました。これからは厳しい時代が続くかと思います。しかし、子どもたちは変わりません。子どもたちが、楽しく学べる学校づくりのために、また、自分の生活を豊かなものにするために、それぞれのポジションでがんばってほしい！と・・・エールを送り、感謝の気持ちを込めて終わります。



大事協会員の皆さんに感謝！ 瀬戸内町立薩川小学校 西村 孝弘

若いうちは、とかく周りを見ず、ガムシャラに進んでいくものだが、振り返れば、まさにそのままの大いに反省すべき点がある。

事務職員としての歴史を緋くと、

1977（昭和52年）、初任地の宇検村立田検小学校に配属せられ着任した。奄美大島も初めてなら、学校勤務も同様である。学生時代の知人がいて、生活は何くれとなく面倒を見てくれたが、教員なので仕事は頼れない。やはり、近隣校の先輩が頼りである。村内には二人いたが、同職種というのですぐ親しくなり、公私ともに随分、面倒を見てもらった。この二人には、大いに感謝しているが、一人は現役で死去したのは残念なことだった。

児童とは、スポーツ少年団（ソフトボール）の活動を通して、また、田検中学校生徒とは、卓球の関係で交流を深めることができた。今でも慕ってはくれているが、教員のように結婚式などに招待されないのは事務職員の限界だろうか、少々寂しい。

2年8ヶ月ほど鹿児島に転出（行政）。仕事は覚えたが、長くいる雰囲気ではなかったため、また奄美の学校に異動希望を出し、徳之島町立山小学校に赴任。

ここで特筆すべきことは、地域との交流がより深くなった事だろうか！？職員としての立場を離れてつきあえるのは、何にもまして嬉しいことである。迷惑もかけたであろうが、それを感じさせない度量が地域にあったと思っている。

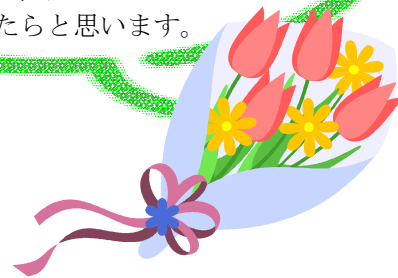
瀬戸内町立久慈小学校、龍郷町立田小学校、再度宇検村立田検小学校、現在の瀬戸内町立薩川小学校と異動したが、多少なりとも経験を積んだからか、余裕が出てき、やっと周りを見渡されるようになった。

いろんな経験をすることは大事であるし、また、いろんな人との付き合いも同様であろう。とにかく平穩無事に大病を患うこともなく、やってこられたのは、多くの人々の援助があったからだろう。そのことに深く感謝している。

最後に学校あつての、児童生徒がいての事務職員である。

できれば地域に居住し、大いにその能力を活用してほしい。

上田先生、西村先生、
ありがとうございました。体調には気をつけて、
これからの人生楽しんでください。
私達のこれからも、見守って
いただけたらと思います。



○編集後記○

今回は、和泊町が中心となり、原稿集約・編集して頂きました。お忙しい中、ありがとうございました。

次号は、6月発行予定です。編集担当市町村は、伊仙町です。原稿提出市町村は、①知名町②天城町③瀬戸内町です。年度が変わりますので、引き継ぎをよろしく願います。

今年1年、皆様のおかげで、無事、大事協だよりを発行することができました。ありがとうございました。悲しいこともありましたが、年度末年度始め、体調には気をつけて、声を掛け合いながら、乗り越えていきましょう。

今、卒業式前でどの学校もお花がきれいに咲いていると思います。伊津部小にも咲きました。少しでも和んで頂けたら嬉しいです。

原稿もお待ちしています。

送り先： itsubu-e@city.amami.lg.jp
伊津部小学校・藤崎まで☆



